ヒグマ人身事故再発防止策（案）の体系

資料4-1（別紙1）

原因

- **突然の遭遇や子を守るための防御的攻撃**
- **積極的な攻撃**

リスク

- **不意の遭遇**
- **問題個体の存在**

「人間との接近遭遇」のリスクを高める

検証

- ヒグマ生息地での登山の行動規範（ヒグマとの突然の遭遇をさける、クマ鈴・クマ撃退スプレーの携行、ゴミや食料の管理等）が十分認知されず行動変容に至っていない可能性

- 同行者への聞き取りによれば記憶に残る効果はなかった。危機感を伝え行動変容を促す注意喚起の手法を要検討
- 伝聞情報に基づく危険性評価が難しい場合の意思決定の手順、危険事案が発生時に登山口閉鎖等を行う基準や手順が必要

- 人を恐れない、人を積極的には避けない、人なれした個体の増加
- クマに興味を持つ/恐れない来訪者により、写真撮影等のための過度な接近や餌付け等、人なれを増長させる不適切な行動が課題
- 本件事故の加害個体も問題個体

再発防止策

登山者等への情報提供と指導

- ヒグマ生息地での登山の行動規範を計画段階で確認できるようwebページを新設
- 登山計画書の提出を喚起
- 登山口に新設する登山前チェックシートで、登山やヒグマに関する事前準備を促し、入山人数や大まかな登山行程を把握
- 登山口での情報提供と注意喚起強化
- クマ撃退スプレーの普及とレンタル強化
- フードロッカー、フードコンテナの利用を強く推奨

問題個体が確認された際の評価と対応フローを再整理

- 一般登山者からの伝聞情報に基づく危険性評価が難しい場合を含めた問題個体評価の見直しと対応決定手順の作成

リスク評価に基づいた注意喚起

- 利用者の行動変容に結び付く、リスク評価に基づく注意喚起

登山口の閉鎖を含む対応の基準と手順の明確化

- 登山口閉鎖と解除等を行う際の基準と手順を対応の選択肢として明確化

問題個体発生抑制

- 特定管理地で危険な行動をとる「行動段階１＋」個体の捕獲を含む対応強化
- ウェブサイト、SNS等による情報発信の評価、改善
- 来訪前段階での情報発信強化
- 来訪者の認知度・行動変容の把握
- 「人の接近・餌付けがヒグマの行動を変化させ、事故リスクを高める」プロセスの理解促進
- 集中対策期のイワウベツ川沿いでの対策強化・継続
- 自然公園法第37条による餌やりやつきまとい行為の告発を可能とすべく法運用体制を改善